

## 特集 土木学会創立110周年記念号

—土木の核とひろがり—

土木學會誌 11 CIVIL ENGINEERING Vol.109 No.11 November 2024 特集 土木学会創立110周年記念号 土木の核とひろがり 公益社団法人土木学会

## トンネルに込める思い 熱い志のヒーローたち

【撮影場所】 横浜環状南線 釜利谷庄戸トンネル（神奈川県横浜市）

関東圏をぐるりと取り囲んで走る圏央道。釜利谷庄戸トンネルは、NATMで施工する道路トンネルとして世界最大級の超大断面トンネルだ。実は、このトンネルは単純な1本のトンネルではない。6本のトンネルと2連カルバートで構成されている。そのうち、上下線と本線とランプが、それぞれ1本ずつに分岐・合流する地点に来て、度肝を抜かれた。Tunnels in tunnel！こんな見たことない！母の胎内で双子が寄り添い並んでいるイメージが浮かんだ。

さらに進んでいくと、鉄筋の組立作業が行われていた。トンネルの美しいアーチに沿って鉄筋が組まれている。これも芸術作品だ。太い鉄筋と格闘するようにハッカーという工具で黙々と結束していく。鉄筋リーダーの川崎健志郎さんは「掘削時から現場に入るのは初めてだけど、よくこんなにきれいな断面にできるなと感動した。だから、鉄筋もきれいに組もうと気合が入る」と、使命感と職人魂に燃えていた。

トンネル専門業者の細川智広さんは、「20年トンネル一筋でやってきたが、出来上がったトンネルを通る時はいろいろのことを思い出す。それは携わった人にしか感じることができないと思う」と話す。トンネル工事に携わる人たちに共通する熱い思いが、トンネルには込められているのだ。

鉄筋が美しく組まれた時、トンネルが完成した時、その人たちはどんな笑顔を見せてくれるのだろう。現場に立ち向かうヒーローたちを撮らざるにはられないゆえんだ。



【写真・文】 山崎エリナ

写真家・エッセイスト。40カ国以上を旅し、国内外で写真展を多数開催。息遣いが聞こえるような「瞬間」を切り取った作品に定評がある。土木関連写真集に「インフラメンテナンス」、「Civil Engineers 土木の肖像」、「トンネル誕生」、「鉄に生きる」などがある。